http://www.jamee.info/file/jameer/2020/jameer132024.pdf(←本文を開くにはパスワードが必要です。)
日本水圏環境教育研究会（hypomesus@gmail.com）にご連絡ください。

水圏環境分野における課題研究の評価方法の研究
Research on Evaluation Methods for Research Projects in the Aquatic Environment

小坂康之（福井県立若狭高等学校）
Yasuyuki Kosaka (Fukui Prefectural Wakasa High School)

【要約】
本研究では，課題研究における「評価方法の確立」を目的に，水圏環境分野の研究課題を設定した生徒の例をもとに検証を実施した。地域のステークホルダーによる課題研究の目標設定を実施，必要とされる，また，課題研究を通じて得られる学力を「課題設定能力」と定めた。目標からパフォーマンス評価の手法を用いて評価規準，評価規準表（ルーブリック）を作成し，水圏環境分野の課題設定をした生徒の記述物を検証した。加えて，生徒及び教員のインタビュー調査により，評価の実施による効果を検討した。実践の結果，水圏環境分野における課題研究の目標設定に，地域のステークホルダーを酸化させることの意義が示され，評価規準表を用いて生徒の学びを適切に評価できることが明らかとなった。

【キーワード】
課題設定能力，パフォーマンス評価，ルーブリック

Ⅰ　研究の背景・目的

水産や海洋に関する教育活動は，学校教育の中で，生物，環境，食品など様々な分野を取り上げ，実施されており，学校教育においては，総合的な学習の時間や課題研究として実施されている[1)]。水産海洋系高校においても未利用資源の有効利用や環境保全分野などで生徒が主体となり，課題研究がなされてきた[2)]。

しかし，多くの授業実践がされているにもかかわらず，課題研究の学習を通じて得られる学力が，示された研究は少なく，いつ，どの段階で，どのような学びが生じたのかを明らかにした研究例は少なく。特に水産や海洋教育の水圏環境分野の研究事例はほとんどないのが現状である。学習指導要領平成３０年告示においても新たに「総合的な探究の時間」や「課題研究」の取り組みの充実が盛り込まれており[3)]，今後，学校教育において課題研究で得られる学力を明らかにし，生徒や保護者に学びを保障することは非常に重要である。さらに得られた学力を評価し，評価結果をカリキュラムや授業改善に生かしていくことは，今後の水圏環境教育をより発展させていく上で大変重要である。

そこで本研究では，課題研究における「評価方法の確立」を目的に，水圏環境分野の研究課題を設定した生徒の例をもとに学びの発達のプロセスを明らかにすることを目的とした。検証した。

Ⅱ　研究の方法

1．評価の開発

１）目標の設定

地域のステークホルダーである大学教員，民間企業経営者，地域の有識者と協働して，課題研究の目標を検討した。学習指導要領における目標，本校の課題研究の目標をもとに，課題研究を通じて，本校の生徒にどのような学力が必要とされ，また，育成されるべきかを検討した。

２）評価規準・評価方法の設定

目標設定の結果，パフォーマンス評価の手法[4)]を用いて得られた目標の評価規準を作成した。合わせて，評価の対象を，生徒の研究の「目的」「背景」「方法」の記述が最も「課題設定能力」を反映する成果物として，また，専門性のない教員でも十分に評価できると考え，対象とした。完成した評価規準をもとに評価規準表（ルーブリック）[5)]を作成した。

３）評価の実施

作成した評価基準表で評価を実施した。課題研究の生徒の記述物，特に目的と背景の記